

広島県鉄構工業会と建築学会

# 山口大で研究発表会

## 高力ボルト接合部、300人参加

【宇部】広島県鉄構工業会（理事長＝山本泰徳・ステントス社長）と日本建築学会中国支部は3日、山口県宇部

発表する船山・三和鉄構建設尾道工場長



市の山口大学工学部・常盤キャンパスで「拡大孔を有する亜鉛めっき高力ボルト接合部のすべり係数に関する研究」をテーマとした発表会を開催、約300人が参加した。

三和鉄構建設尾道工場の船山聖喜工場長が研究結果について説明を行った。一般に建築鉄骨で使用する高力ボルトの穴は建築基準法でプラス2mm以下と定めているが、腐食防止に効果的な亜鉛めっき高力ボルトを使う場合はボルト穴にめっきが付着し、ボルトを穴に挿入できないことが発生するケースがある。今回の研究ではボルト穴を3mmと広げた場合でも、接合面のすべり係数を表す値「すべり係数」は基準値を超える0.5以上で、ボルトの張力も変わらないことを明らかにし

た。課題としては試験体をめっき槽に漬け込む過程で、ボルト穴に付着するめっきの量に差異が生じてしまうため、「穴に付着しためっきの厚さを調査し、平準化していくことが必要だ」と述べた。

同工業会は中国地区の大学や日本建築学会中国支部と連携し、現場での作業性向上を目的に「鉄骨製作部会」を設置。鉄骨に関する研究や実験会を行い、データを蓄積している。